

令和3年度第3回鳥取県教育審議会学校等教育分科会（要旨）

- 1 日 時 令和3年7月21日（水）午前10時から午前11時30分まで
- 2 会 場 とりぎん文化会館2階第3会議室
- 3 出席者 小椋分科会長、尾崎委員、二階堂委員、重本委員、渡邊直委員、中村委員、三木委員、山根委員、岩田委員、西川委員、渡邊昌委員、大西委員、田中オブザーバー、金山オブザーバー
（教育委員会）中田教育次長
（高等学校課）酒井課長、福本室長、尾崎課長補佐、新田指導主事、石原指導主事

4 要 旨

①前回の答申案からの、主な修正点は以下のとおり。

『はじめに』

- ・新型コロナが教育活動に与えた影響を検証する上で、学力格差の問題や、貧困、虐待等で困難な家庭環境にある生徒の状況などを踏まえることが今後のあり方を検討する上でも、大切な視点となるということを加えた。
- ・特性や個性の名の下に特定分野に関する知識技能の獲得だけに取り組みせるのではなく、他分野に関する興味や関心、挑戦する意欲を育む視点も求められるということを加えた。

『1 Society5.0時代を見据えた生徒一人一人の能力を最大限伸ばす学び』

- ・新たな時代に本県で求める力として、【創造力】、【コミュニケーション力】、【学び続ける力】と明確に示した。

『3 地域から問題提起し、世界に貢献する行動ができる力を育成する学び』

- ・社会参画力を高め、地域社会の一員として道徳心を持って生活していくことができるよう、地域社会や、ひいては国際社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を磨いていくことが必要となるという表現を加えた。

『6 特別な支援が必要となる生徒に対する指導及び支援の在り方』

- ・具体的に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、LD等専門員等専門家を継続的に配置することが望まれることを加えた。
- ・高等学校における特別支援学級の設置など、新しい仕組みの導入についても調査研究に取り組み、検討に加えられることが望ましいということを追加した。

『7 時代の変化・役割の変化に応じた定時制・通信制課程の在り方』

- ・定時制・通信制高校で特色ある様々な体験的な学びを展開している結果、定時制・通信制高校を自ら選択して入学してくる生徒も確実に増えていることを追加した。
- ・多様な生徒一人一人の能力を最大限伸ばしていくため、デジタル化が進む広域通信制高校の取組等を参考にICTを活用した効果的な「指導の個別化」の学びを調査研究し、本県ならではの定時制・通信制教育を展開することを加えた。

『8 今後も続く生徒減少の中での学校規模の在り方』

- ・標準的な学校規模として県立高校一律に1学年3学級程度とすることを想定したものではなく、各校の教育目的や地域性、地理的環境等を考慮して適正となる規模での高校作りを進めることが必要であるという説明を加えた。
- ・学校規模を考えていくことにあわせて、施設の最適な整備、保有総量、効果的な利用などについても検討を進めていくことを追加した。

『10 公立・私立高等学校、高等専門学校の役割分担や連携の在り方』

・公立私立がそれぞれ発展していくためには、県内外の中学生から注目されるよう切磋琢磨する中で、互いの魅力化や特色化を進めていくことが必要と表現を修正した。

『11 Society5.0 の社会に対応した ICT 利活用に関する学校施設・設備の在り方』

・情報モラルの育成に当たって、十分にリスクを想定した上で、システム上の制限は最低限にとどめることと表現を修正した。

・ICT導入や探究的な学びに対応できるよう、教室等の空間をデザインしていくという視点を持つことも大切であることを追加した。

- ②【創造力】、【コミュニケーション力】、【学び続ける力】の3つの能力が大事だとされた理由が書かれていないので、整理をする必要がある。
- ③個別的な学びと協働的な学びという学びの方法についての記述があるが、学びのあり方への対応もどうなっているのか疑問である。
- ④創造力、コミュニケーション力、学び続ける力の繋がりや、学習方法との関係について議論していただきたい。
- ⑤広域通信制高校が追加されているので、注釈を入れた方がいい。
- ⑥地域社会における道徳心という表現は少し唐突な印象があるので、公共心とか公民的資質という言い方がいいのでは。
- ⑦非常に良くまとめられたと思うが、批判的に見れば文言などはほとんど書き換えられるものであり、どこまで手を入れるのかは非常に難しい。大切なのは本質である。
- ⑧大きく見ると内容が中学校と高等学校とほとんどオーバーラップしている。教育には継続性があるので仕方がないが、令和8年度以降の高等学校について少し意識した方がいいのではないか。中学校とオーバーラップしている部分を引用する形にして、内容を高等学校に限ればまとまりの良いものになる。
- ⑨よくまとまっているが、主に新たな展開について示されており、元々の子どもの数が1000人減ることに向けての議論がぼやけているように感じる。
- ⑩GIGA スクール構想、ICT教育の一環として「情報」という教科ができ、2025年度の共通テストからの必修化も検討されているということは、国も情報リテラシーの問題を重視しているということであり、県も当然取り組むよう答申の文言に加えてはどうか。
- ⑪『3 地域から問題提起し、世界に貢献する行動ができる力を育成する学び』に、倉吉東高校の国際バカロレア教育への取組について加えてはどうか。
- ⑫【創造力】、【コミュニケーション力】、【学び続ける力】の3つの力に、どのようなやり方が鳥取県をユニークにするのかという How の考え方があるのかという言葉を加えれば、鳥取県の主張が明確になる。
- ⑬実効性、即効性のある取組であれば、令和8年度を待たずに早速でも取り掛かっていただきたいし、そのようなことが示されると、生徒や保護者にとって響くものとなる。
- ⑭求める力は、小中でも求められるものであるので、小中校の一貫性と、高校ならではのアプローチの異なる部分が示されるといい。
- ⑮創造力は、学習指導要領の学力の3要素が総合的に働いて問題解決ができるみたいなことで、一番理知的な能力の最先端のような感じだと思う。
コミュニケーション力には、授業の中での集団的な学び、あるいは特別活動、行事、学級活動など様々な場面で身に付けられる人間関係の調整能力を含めている。

学び続ける力は、メタ認知というか生涯学習力とか言ったりするが、学習の自己コントロールの力である。学びに向かう力とか人間性の中に自己コントロールの力が入っている。

⑩この会が始まった時はコロナで皆がどうしようかと考えていたが、これは非常にラッキーだと思った。こういう時でない限り、変わらない。その緊張感によって、我々が変わるぞという雰囲気があったと思う。

⑪1学級の最小規模として3学級が適当であることの根拠の記載が必要。
例外があるのであれば、ただし書きで示せばよい。

⑫大事なことは、この後教育委員会がこの答申を受けて計画を考え、そこでどういう政策判断になるのかということである。そこでは当然パブリックコメント等により一般の方々の意見を求められ、それも踏まえて決定されることになる。

この審議会の答申としては皆さんのご意見を踏まえた形になっていると思う。

⑬本分科会は今回で最後であり、答申案の修正等をメール等で各委員に確認していただいた上で、最終決定は小椋会長に一任する。